

2004 年度後期の同窓会活動報告 (2005 年 9 月末日まで)

21 世紀初頭の日本社会は、長期デフレと少子高齢社会、高度情報社会、個人型社会となり、この新時代の変化に対応すべく経済、政治、行政の改革が進められている。しかし、20 世紀末の日本経済の破綻による行財政の傷はあまりにも深く、現在もこれを克服する有効な手法が見出せず、昏迷の時代を迎えてしまっている。

学園は 1999 年度から新時代に相応しい教育改革を推し進め、幸いに 2003 年度までに新しい教育体制を構築することができた。中高一貫教育体制と短大と大学の統合による 3 学部体制の確立が行われ、更に学園総合グラウンド用地の取得など学園教育環境の整備が進行している。

短大部は 2004 年度に第 55 回卒業式が行われ、これを最後に、発展的解消をすることになった。この改廃は全国日本の学制 100 年の歩みの中で、学制が変化する節目の度に、本学園だけではなく全国的に行われてきている。今、本学園改革の中で短大ばかりでなく中高一貫による現中学校の変化や大学の学科廃止、さらには学科名称の変更も行われている。学園がこれらに対してなすべき事は、学園の改革の中でこれら残されてしまう各部門の卒業生を学園の財産として組織の中に大事に取り込んでいくことではないだろうか。学園の叡智に期待を託していきたいと思う。

この新しい社会に対応し変貌を遂げていく学園で、短大部同窓会は 2004 年 11 月 23 日の年度幹事総会において、会の再生を目指して同窓会規約を大幅に改正した。その規約の目的で謳ったとおり、会員の親睦と教養の向上を図ると同時に学園の発展に寄与する活動を行っていく。そして元気良く自力の道を歩み続け、会員が身近に感じられる会、心のオアシスとなる会に再生させたい。学園がどんなに変化しようとも、本会はシオンスピリットに基づく同窓会を堅持し、なお一層の発展を図っていきたい。皆様方のこれまで以上のご参加とご協力をお願いする。

2003 年度の本会は短大部募集停止に伴い短大部同窓会の存続意義の確認とその活動内容の再構築の取り組みであったが、2004 年度は具体的な活動資金確保の方法と新方針に基づく活動の活性化を図ることである。活動資金は学園からのシオン会存続支援基金の他に同窓会が自力で確保すべきものである。今後運営資金を賄ってきた入会費の徴収が全く無くなるわけで、運営費はこれまでと違う観点から確保しなければならない。その第一は、本会の運営資金として元々毎年会費を徴収すべきであったが、これまで入会金しか徴収しなかった。2004 年度から全会員から年度会費を徴収することにしたい。第二に、2005 年度から理事会よりシオン会基金(仮称)を創設し、存続に万全を尽くすとの意向が示され、これを貴重な運営資金として充当する。第三に、父母の会からも園遊会運営資金の援助を受ける事になった。

本会は、このような本会に対する学園理事会及び父母の会の皆様のご支援に感謝し、本会が永久的に存続していけるように邁進していきたいと思う。

2004年11月23日付、2004年度定期年度幹事総会内容は次のとおりである。

(1) 2003年度事業・決算報告及び監査報告について

事業報告書は別紙資料のとおり、収支決算書は次のとおりである。

収入の部 1,502,526 円 支出の部 1,415,286 円 次年度繰越金 87,239 円

(2) 2004年度事業計画案・収支予算書について

事業計画書は別紙資料のとおりである。収支決算書は次のとおりである。

収入の部 1,581,109 円 支出の部 1,501,525 円 次年度繰越金 78,584 円。収入の特徴は短大が1995年(10年前)当時、4学科600名2学年で1230名という在学学生を収容していたが、統合により2004年度には177名の学生を収容するだけとなり、この卒業生の入会金796,500円の収入が主な収入源である。更に短大と本会合同の園遊会では短大からの収入は無くなり、その代わり父母の会援助金30万円、事業積立引当金の取崩の収入31万円となっている。支出の主なものは園遊会60万円、支部活動助成30万円、本部活動費63万円などとなっている。

(3) 第23回園遊会開催予算について

毎年101万円ほどの予算規模で実施する。参加者は教職員と卒業生170名程度を見込んでいる。主な収入は会負担60万円、参加費26万円、繰越金15万円、計101万円である。支出は主に通信費28万円、懇親会費38万円、催し物20万円、事務費4万円、次年度繰越金8.7万円等となっている。

(4) 本会の規約を大幅に改正し、会の再生の基礎を定める事にした。

改正後の規約を短大部ホームページに掲載しているのでご覧下さい。

(5) 役員の一部を補充し強化を図った。今後とも組織の強化と役員の補強を

行い、会員に奉仕できる役員執行体制を作り上げて行きたい。

(6) 学園記念館募金活動案について

この学園記念館復元の募金活動は、鍋田雄二副会長が委員長となり、専門委員会が中心となって取り組むことになった。この館は現在のキャンパスに最初に建てられた校舎であり、シオンカレッジが初めて使用した記念の木造校舎で、短期大学の発祥の記念館である。このような教育遺産をキャンパスに残していく事が、我が学園を発展させていく礎になるものと思います。今本会の事務局となっているモアヘッド記念館と共に保存していく

べきものである。従って、この記念館復元の募金活動はシオンスピリットの再構築に繋がる意義深い活動として取り組んでいくことになった。今後の活動はその都度報告していく事にする。

(7) 本学園理事会提案の同窓会シオン会存続支援基金の設置について

本会は、2003年3月26日付及び同年10月5日文書で本学園理事会から短大部廃止に伴う本会の維持の為に、シオン会基金（仮称）を設置し、存続に万全を尽くす旨の文書を拝受いたしました。本会としては役員会並びに年度幹事総会で審議しこれを本会の総意として受け入れる事に決定しました。直ちに、この旨を理事会にご返答申し上げると同時にこの基金設立は最後の短大生が卒業する2005年3月末日までに行うように要望いたしました。しかし、理事会から具体的な提示がなかったので、本会は文書にて度々要望をいたしました。また、2004年6月30日に理事会と懇談会を持ち、学園理事会との協議も行いました。最終的には当初提示された設立基金（シオン会基金）とは異なる資金援助をしたい旨の提案がありました。

この理事会提案書を役員会並びに総会で検討し、当初からの提案とは異なる内容の支援策ではありますが、これが今の理事会の可能な支援策であるならばこれを受け入れる事に決定し、その旨を理事会に申し上げました。本会は学園より今後次のような支援を受けることになるが、これでは本会の維持運営は不可能である。従って、これからは毎年会員から年度会費を徴収し、寄付金募集、行事広告料を取得して自主財源を確保することに全力で努め行く必要がある。同窓会員各位には、この事を十分にご理解いただき、ご支援ご協力を改めてお願いする。

幸いにも、2005年6月時点までに、大勢の会員から年度会費の納入を頂ており本会の運営に確かな手応えを感じている。この事に感謝申し上げますと同時に、未納の方には出来るだけ早く納入をお願い申し上げます。

2004年度から2006年度会費納入者一覧を別紙に掲載した。沢山の未納者がございますので、納入をお願いいたします。

理事会からの支援策 1. 毎年度のシオン会運営経費の一部を支援。

2. シオンニュース（シオン会だより）の費用を支援。

父母の会からの支援策 1. 園遊会運営経費の一部を支援。

(8) 学園祭の初参加報告について

11月3日の第56回学園祭に初めて大学短大部同窓会シオン会バザーを出店した。会員の皆様が沢山の表品を持ち寄り、魅力的なバザーコーナーが出来上がりました。お店は常の黒山の人だかりができていた状態で、13万7千円の売り上げとなりました。一部を義援金とし、残りは本会活動資金として有効に使用させていただきました。来年度も趣向をこらし出店したいと思います。

1人でも多くの方のバザー商品をご提供下さるようお願い申し上げます。

2004年12月以降の学園記念館募金活動報告

- (1) 本会の学園記念館復元募金委員会メンバーと高校・中学校同窓会役員会との懇談会開催について

2004年12月18日(土)午後4時から、ホテル天地閣において各部門の役員20名が参加した。2年前から取り組んでいる中高の募金活動の報告をして頂き、4大、短大、高校、中学校同窓会の今後の取り組みについて話合った。

学園復元のための建築費用見込み8,000万円

学園同窓会連合として2,000万円を募金目標とする。内訳は4大の部500万円、短大の部400万円、高校の部1,000万円、中学の部100万円

募金活動期間17年度から18年度

- (2) 2005年2月13日付定例役員会、学園記念館復元募金活動の検討について

①記念館が短大で初めて入った建物であり、復元後は同窓会館的なものであれば、短大同窓会も応分の負担をしなければならないと考え、寄付金の募集をすることにし、今後詳細をさらに煮詰めていく。

②学園理事会の復元計画、建築日程、財源について5月末日までに明示してもらふことにする。

③寄付金の募集に当たり、建物が学園の資産であるので、減税の対象になるのではないかと。学園にその手続きを依頼する。この③の答えとして、学校の建物でも直接教育に供用されない場合は、減税の対象にならない。

④募集金額はB案に決定する。次のとおりである。

第1～3回 1口3万円 1口以上、 第4～15回 1口2万円 1口以上

第16～20回 1口1万円 1口以上、 第21～55回 1口2千円 1口以上

⑤復元規模

シオン会会長から学園理事長宛に文書で「学園同窓会連合の本拠地として、復元を行う事」をお願いした。理事長の回答として「長期経営計画のスケジュールに則って同窓会館を建設する予定で、旧記念館の半分となる予定です」とのことである。(50坪2階建て計100坪予定)

- (3) 2005年3月20日付定例役員会、学園記念館復元募金の要望書提出について

05年2月22日付、会長名で、別紙のとおり要望書を理事長宛に提出した。03年度に解体された学園記念館の復元には本学園各同窓会が一致団結して建築推進の協力をする事を考えている。本会も04年度後半より募金活動に取り組む予定である。募金活動には会員に対する募金趣意書並びに同窓会館概略図などの説明資料が必要である。それらの資料を5月末日までにご教示下さるようお願いした。

これに対する理事長の回答としては、復元工事及び財源引当計画を05年

度予算に盛り込んで機関決定し、その後正式回答をする。財源引当としては基本金組入を行い、資金の手当てを明確にするとの回答を口頭でご返事を頂いた。

- (4) 05年6月5日、第1回臨時役員会 学園記念館復元に関する報告
平成17年度(05)予算でX万円計上19年度までに引き当てて財源を確保する事を決定した。従って、この時点で積立額の建物ができた事になる。後は各同窓会の募金額を19年度当初までには確保しなければならないことになる。次回には委員会による募集計画案により検討し、その実施に移したい。

2004年12月以降の同窓会新聞編集・発行に関する活動報告

- (1) 2005年2月13日付定例役員会、委員会の取組みについて

これからの同窓会新聞も新しい新聞モデルを創り出すことが必要である。多様化するライフスタイルと変貌する生活環境に即した内容の機関紙を作る事が求められている。これまでに経験した事のない新しい社会では市民が中心になって新しい生活様式を築いていくことになる。本会の諸活動と会員からの情報提供をそのヒントしていけば、会員のニーズに合ったものが出来ると考えている。これまでのように学園内の発展記事ばかりではなく、会員の地域振興活動や文化活動報告や旅行の手記や各種活動のお誘い記事なども取り上げて紹介する。地域主催の講演会、実習講座、他大学公開講演会、リカレントスクール案内なども有力な記事となろう。その他会員にとって有益であると思える事柄を積極的に掲載させていきたい。

新聞サイズ、枠組み、学園教育活動報告、役員本部だより、各支部便り、卒業年度別に、地域別に取材、卒業生関連行事報告、生涯学習活動報告、社会の各分野で活動している卒業生の紹介(卒業生からの情報収集の工夫)取材、編集・発行委員会には5名を補強し、総勢19名とした。

- (2) 第1回新聞編集・発行委員会の開催について

05年6月5日、学生会館でシオン会だよりの作成と発刊について話し合った。

メンバー 会長 根本龍哉、委員長 霜峯昭、委員 近藤倬司、前島千恵子、長山洋子、岩淵延子、横須賀敏雄、大島澄江、石火矢和子、河野香代子、内田さき子、浦井直子、柏淑子、飯島幸子、嘉成洋、大内睦美、関由美子、山崎浩一、小林里衣、在家恵、

- (1) 新聞の名称「シオン会だより」または「シオンだより」いずれかとする。但し、2005年度発行分については未だ短大部が存在するので、従来の「シオンニュース」を継続しようとする。

- (2) 発行回数・時期 原則として年1回とし、12月に発行、1月発送

- (3) 体裁・書体等 A4版で原則として6~8ページ・文字のサイズは13~14級(明朝体) (4) 発行部数 1万6千部程度

- (5) 予算措置 印刷・郵送費 X万円 取材費 Y万円

- (6) 委員の役割 委員の中から編集担当者を指名し、その当該委員が編集方針の決定、ページ構成の検討、進行工程表、台割表の作成等の作業を行う。その他の委員は取材、執筆等を含む広範な作業を行う事により、編集・発行業務の円滑な遂行に協力する。
- (7) 編集担当委員の選出及び氏名
学園から1名と各支部から2～3名を指名する。
東京支部 飯島幸子、近藤倬司
水戸支部 岩淵延子、石火矢和子、浦井直子、柏淑子
日立支部 大内睦美、長山洋子、関由美子
学園事務局 横須賀敏雄
- (8) その他、
広告を募集すること、モニター制度（無作為抽出）を取り入れることを検討する。なお9月から取材など具体的な活動に入る。会員皆様のご協力をお願いする。

2004年12月以降の同窓会名簿管理に関する活動報告

委員会は個人情報保護法との関連で名簿管理についての方法を調査検討する。今後の名簿管理に取り入れていく。次の名簿発行は60周年事業として、1回から55回まで掲載したものとなり、完成された同窓会名簿となる。2010年には60周年になるのでこれを目指して委員会の総力を挙げて一番新しい市町村合併後の新住所掲載したものになる。住所掲載には各自から了解を採る事にしたい。

2005年6月中旬の年度会費納入状況報告

年度会費納入状況は2004年7月1日現在で、627名、1,853,960円（郵便局手数料控除後）、3年間分となっています。

納入者一覧はインターネットで別用紙で掲載し領収書に替えさせていただきます。納入期限が過ぎていますが、まだまだ未納者多く、趣旨をご理解頂き、早々の御納入をお願いいたします。

2005年4月29日第23回園遊会実施報告

恒例の園遊会は晴天に恵まれて約170名の同窓生・教職員が参加の下、盛大におこなわれ、楽しい思い出の時を過ごした。今年の招待旧教職員は土井名誉教授、金井名誉教授、船橋元就職相談室長、高橋元就職部長、稲野辺元学園事務局長がご臨席いただいた。集いの詳細はシオンニュースでお知らせする。

各支部の活動報告

日立支部活動報告

顧問 小室利明
支部長 宮本洋子、
副支部長 大内睦美
副支部長 細谷里美
書記 大島澄江
会計 長山洋子
会計 小野勝子
代表委員 茅根弘道、北沢代守榮、飯山はる、袖山てる子、棚辺啓一、
結城静子、佐藤常子、鈴木喜一、鈴木英澄、河野香代子
監事 根本三喜男

①平成6年度に第1回の「ふれあいの旅」を行い、以来2年に1回実施している。年々参加者も増えており、多くの皆様のご参加をお待ちしております。これまでの旅行先は次のとおりであります。

第1回	平成6年4月24日	富弘美術館を訪ねて、	会費 5,000円
第2回	平成8年4月21日	三春滝桜紀行と知恵子抄の旅	会費 5,000円
第3回	平成10年4月19日	ちひろ美術館、寅さん記念館	会費 6,000円
第4回	平成12年5月28日	古都 北鎌倉	会費 6,000円
第5回	平成14年5月26日	米沢探訪	会費 7,000円
第6回	平成16年5月30日	裏磐梯世界のガラス館と 諸橋近代美術館	会費 6,500円

②2005年度日立支部役員会の開催

3月5日（土）ひたち、常陸太田、いわき市の範囲内の年度幹事に通知した。参加者も年々増えており、今後の活動家が育つ事を期待したい。

水戸支部活動報告

水戸支部総会の開催 2005年6月26日（日）

議題 役員改選と支部活性化について

さらなる水戸支部の活性化目指して、先ず第一に役員体制の刷新を図る。新体制の下に活動を活発化させていくことになる。新役員は次のとおり。

支部長	嘉成洋
副支部長	澤 茂子
副支部長	野澤知行
事務局長	酒井範雄
庶務係	武子みち子
会計係	内田さき子

監 事 関 政夫
小瀧罔雄
小宅近昭

任期 2005年6月26日から2007年11月22日

東京支部活動報告

支部長 鍋田雄二

事務局長 近藤倬司

①2005年度総会予定 2005年10月15日(土)を開催する。

場 所 モノリス(京王プラザ)

東京支部総会は2年に1回、大勢の方の参加の下に行われている。未だご参加をしたことが無い方は是非参加してみてください。良き思い出が出来ることでしょう。

②東京支部の第1回からの広報紙がある。この広報紙集をモアヘッド記念館に収めて保存させることにする。

シオン会本部では、モアヘッド記念館に陳列戸棚を1個購入し、未だ整理していない資料を収納していくことにする。

2005年6月30日

大学短大部同窓会シオン会

会 長 根本 龍哉

ホームページ <http://www.icc.ac.jp/shionkai/>

メールアドレス shionkai@icc.ac.jp

事務局 TEL・FAX 0294-52-8899